



年頭にあたりご挨拶

(一社) 岩手県測量設計業協会

会長 加藤 清 虎

平成30年の年頭に当たりご挨拶を申し上げます。

東日本大震災から7年目を数える年を迎えました。被災地の復興状況は地域の被災程度に伴い進捗の差は否めませんが、社会資本の復旧復興のロードマップ8分野中復興道路及び災害公営住宅を除けば100パーセント着工済みであり、確実に目標に近づいていることは確かです。本年度は第3期復興実施計画の初年度として第2期本格復興期間から「更なる展開への連結期間」と位置付けられていることから、協会挙げて震災復興と台風10号災害からの復旧・復興には優先して取り組み、被災地域住民の安全・安心な暮らしが1日でも早く確保されることを願い、関係機関と連携の上業務に励んで参ったところです。

日頃、私たちの協会は地域社会のインフラ整備の最前線を担当する「知識集約型の技術集団」として日々研鑽に努めてまいったところであり、社会的使命の信条から発注機関に対し「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結しております。

本年度は協会に取って嬉しい事案が多くありました。

- 1) 県知事表彰（平成29年3月30日台風10号災害復旧の貢献）
- 2) 協会副会長国交大臣表彰（7月10日）
- 3) 当協会設立40周年記念式典（10月17日）
- 4) (公社) 全国防災協会表彰（11月27日平成29年度災害復旧及び災害防止事業功労）

会員並びに関係者各位に対し心から感謝致します。

バブル崩壊以降、財政構造改革の施策により公共事業予算が抑制され、建設関連の関係事業費はピーク時に比べ50%、会員数もピーク時50%に減少し低迷期に入りました。その最中、あの東日本大震災が発生し、業界が大同団結して対応したことから会員増が見られたところですが、災害関係が一段落後は通常期発注量の減少の懸念もあって企業の体力回復には厳しいものが有ります。

今後とも、社会資本の維持管理を支える責任を貫くために、会員の減少から来る緊急時の対応が困難な事態の発生も考慮し、現今クローズアップされている「i-Construction(アイコンストラクション)」の柱の一つとなるICT技術の研鑽等、新時代の技術習得に向け、研修会を実施継続する所存であります。

「担い手3法」の積極的な施行は、会員企業にとって発注機関とのビジネスパートナーとして貢献でき、技術者育成・伝承にも繋がりインフラ整備の先兵となると考えております。

社会資本の維持管理の時代となり、メンテナンス業務は益々重要であり、若い人達が「誇りの持てる仕事」として積極的にチャレンジしてくれる業界に戻す為にも発注機関のご理解を求めていきたいと思っております。

関係の皆様には今後とも温かいご指導ご愛顧をお願い申し上げ年頭の挨拶といたします。